

# 「ミレニアム開発目標」と「人間の安全保障」の関係は？

「人間の安全保障」が注目されるきっかけとなった2000年の「国連ミレニアム・サミット」。そこでの合意を踏まえて生まれたのが「ミレニアム開発目標(MDGs)」だ。この世界共通の目標の達成に向けた取り組みに、「人間の安全保障」の考え方はどうかかわっているのだろうか？

## MDGsの達成を下支えする「人間の安全保障」

MDGsは、「ミレニアム宣言」の7つのアジェンダ(課題)のうち、「開発と貧困削減」にかかわる部分に焦点を当てている。ミレニアム宣言には、そのほか「平和、安全保障および軍縮」「人権・民主主義およびグッド・ガバナンス」「弱者の保護」などが挙げられているが、これらは相互に密接に結び付いており、包括的に取り組まないと、いずれの成果も持続し得ない。

「人間の安全保障」は、人々が直面するさまざまな脅威を視野に入れ、貧困や飢餓などの「欠乏」からの自由と、紛争や災害など「恐怖」からの自由の2つに対して総合的に取り組むことを重視している。貧困問題のみならず、人々の状況を一層悪化させる紛争や災害などの恐怖にも包括的に対応することで、MDGsの達成を「下支え」する形で貢献しようとしている。

## 人々の可能性に着目して

JICAでは、「人間の安全保障」の理念に基づき協力

を行うことにより、MDGsの達成とその成果の持続を目指すしている。

成果を達成し、持続させるためには、途上国の人々が自分たちの抱える課題を自ら解決する能力(キャパシティ)を高めることが不可欠である。そのキャパシティは、外から持ち込めるものではなく、途上国自身が伸ばしていくもの。JICAはそのプロセスを、政府とコミュニティの双方において人材育成や組織強化、制度づくりなどへの協力を通じて、側面的に支援している。同時に、NGOや各国援助機関、国際機関との連携や、人々を取り巻くさまざまな課題への包括的な取り組み(マルチセクターアプローチ)を重視している。

さらに、これらの取り組みを下支えする、保健衛生や上下水道などの社会インフラと、道路や鉄道、電力などの経済インフラの重要性を再認識し、今まで以上に「人々」に着目した、貧困削減に役立つようなインフラ整備を推進している。

こうしたアプローチに加え、貧困・飢餓、災害や紛争などさまざまな脅威に対し、防災協力や、紛争の再発予防、復興開発支援などの平和構築に取り組み、脆弱な人々を守ることで、MDGsの達成に貢献しようとしているのだ。

2015年まで残り10年。JICAは、人間の安全保障の理念の実践を通じて、世界の人々とともに、MDGsの達成に向けて走り続ける。



報告書「世界のためによりよい明日のために」 JICAのミレニアム開発目標(MDGs)に向けた取り組みには、MDGsに関するJICAの取り組みの実績や協力方針・事例がまとめられている。ホームページ <http://www.jica.go.jp> からダウンロード可能

## 「ミレニアム宣言」と「ミレニアム開発目標」

2000年に開催された「国連ミレニアム・サミット」で、公正かつ持続的な世界平和のために、平和・安全保障および軍縮、開発および貧困撲滅、共有する環境の保護、人権、民主主義およびグッド・ガバナンス、弱者の保護、アフリカの特別なニーズへの対応、国連の強化、の7つのアジェンダにおいて国際社会が連携・強調することを合意した「ミレニアム宣言」が採択された。これをもとに、人間開発を推進するために最も緊急に取り組まなければならない課題に対する国際社会全体が共有すべき目標として、「開発および貧困撲滅」に関する具体的目標である「ミレニアム開発目標(MDGs)」が取りまとめられた。

MDGsは、極度の貧困と飢餓の撲滅、普遍的初等教育の達成、ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上、乳幼児死亡率の削減、妊産婦の健康と改善、HIV/AIDS、マラリアおよびその他の疾病の蔓延防止、持続可能な環境の確保、開発のためのグローバル・パートナーシップの推進、の8つの目標と、18のターゲット、48の指標から構成され、2015年という達成期限が定められている。